

2020年度 教育計画 (理学療法学科)

学 年 : 3 科 目 名 : 理学療法総合Ⅲ 担当講師 : 藤瀬/降旗/中川

単 位 : 6 単位 教育時間 : 90 時間

教育目標 【到達目標】 : (GIO) 基礎・専門知識を問う演習問題を理解しながら正しい解答を導くことが出来る。

(SBO) 近年の理学療法士に必要な基礎知識・専門知識および技術水準を理解し、学習計画を立案する。

理学療法士に必要な基礎・専門知識を問う試験において60%以上の正答率で解答することが出来る。

【講義概要】

理学療法士の資格取得のために必要な国家試験の合格に向けて、基礎医学や臨床医学についての復習を行う。また、目標に向けての学習計画のアドバイスなども行う。

回数	項 目	内 容
1	国家試験対策1	オリエンテーション
2	国家試験対策2	骨の基礎、骨の連結
3	国家試験対策3	筋の構造と機能
4	国家試験対策4	関節 (肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指)
5	国家試験対策5	関節 (股関節、膝関節)
6	国家試験対策6	関節 (足関節、体幹)
7	国家試験対策7	関節 (頭部、顔面)
8	国家試験対策8	筋の作用、姿勢
9	国家試験対策9	歩行、バイオメカニクス、運動学習
10	国家試験対策10	神経の基礎
11	国家試験対策11	中枢神経系
12	国家試験対策12	末梢神経
13	国家試験対策13	反射、感覚
14	国家試験対策14	呼吸・循環
15	国家試験対策15	消化器・代謝・ホルモン・発生・細胞
16	国家試験対策16	病理学
17	国家試験対策17	人間発達学
18	国家試験対策18	内科学 (循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患)
19	国家試験対策19	内科学 (代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患)
20	国家試験対策20	内科学 (血液疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症)
21	国家試験対策21	内科学 (腫瘍・がん、廃用性症候群・加齢、薬物療法)
22	国家試験対策22	神経内科学 (神経症候学)
23	国家試験対策23	神経内科学 (神経疾患各論)
24	国家試験対策24	神経内科学 (神経疾患各論)
25	国家試験対策25	神経内科学 (筋疾患)
26	国家試験対策26	整形外科 (骨折、骨粗鬆症)
27	国家試験対策27	整形外科 (関節リウマチ、変形性関節症)
28	国家試験対策28	整形外科 (末梢神経損傷、脊髄損傷)
29	国家試験対策29	整形外科 (脊椎疾患、膝関節障害、小児整形外科)

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

国家試験の過去問題の演習やその解説を行う。担当教員は理学療法士であり、資格取得の経験や教員としての講義経験や学生指導の経験を活かし、授業を展開していく。

2020年度 教育計画 (理学療法学科)

学 年 : 3 科 目 名 : 理学療法総合Ⅲ

担当講師 : 藤瀬/降旗/中川

単 位 : 6 単 位 教育時間 : 90 時間

教育目標 【到達目標】 : GIO:臨床実習での評価から治療にいたる思考を理解する

SBO:①疾患に応じた評価項目を選定できる ②検査測定結果から問題点の抽出できる

③目標設定と治療プログラムの立案ができる

【講義概要】

理学療法を実施するうえで必要な統合と解釈の理解を深めるとともに、症例検討を通じて、基本情報、検査測定項目の抽出、動作観察、問題点の抽出、治療プログラムの立案など行っていく。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	評価実習の振り返り(知識)、ICFの考え方
2	症例検討	疾患の特徴・情報収集・検査測定項目の抽出(次回課題提出)
3	症例検討・実技	検査・測定
4	症例検討	発表・実技の目標設定・測定結果の提示(次回課題提出)
5	症例検討	発表・グループワーク
6	症例検討・実技	動作観察
7	症例検討・実技	動作介助
8	まとめ	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16	測定・治療	実技

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義・実技形式で行う。担当教員は理学療法士として、病院・介護施設・在宅の分野で多くのケースを通じて、理学療法を行うと同時に、実習生の指導を行う。

2020年度 教育計画（理学療法学科）

学 年： 3 科 目 名： 理学療法総合Ⅲ

担当講師： 藤瀬/降旗/中川

単 位： 6 単位 教育時間： 90 時間

教育目標（到達目標）： GI0：臨床実習での評価から治療にいたる思考を理解する

SBO：①疾患に応じた評価項目を選定できる ②検査測定結果から問題点の抽出できる

③目標設定と治療プログラムの立案ができる

【講義概要】

理学療法を実施するうえで必要な統合と解釈の理解を深めるとともに、症例検討を通じて、基本情報、検査測定項目の抽出、動作観察、問題点の抽出、治療プログラムの立案など行っていく。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	臨床実習に向けて
2	評価実習振り返り	評価実習資料を用いて、振り返りを行う
3	評価項目	症例に則した評価項目の選定
4	動作観察	動作の観察
5	統合と解釈	評価結果と動作の観察、ICFを用いて
6	治療	プログラム立案と治療
7	測定・治療	測定・治療方法のまとめ
8	まとめ	まとめ

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義・実技形式で行う。担当教員は理学療法士として、病院・訪問リハビリテーション分野で多くのケースを通じて、理学療法を行うと同時に、実習生の指導を行う。